

# 令和4年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果 **<<続報>>**

草津市教育委員会

令和5年3月13日

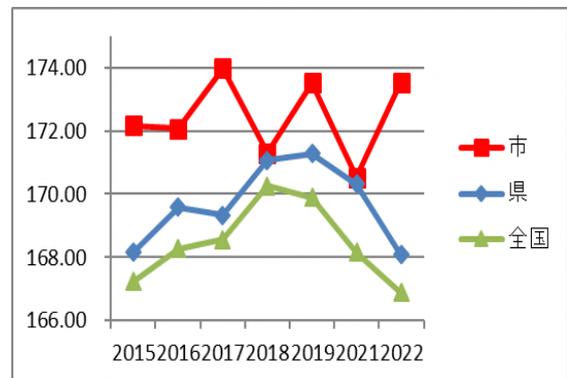
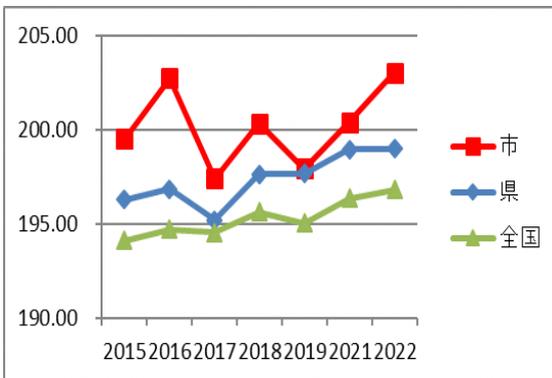
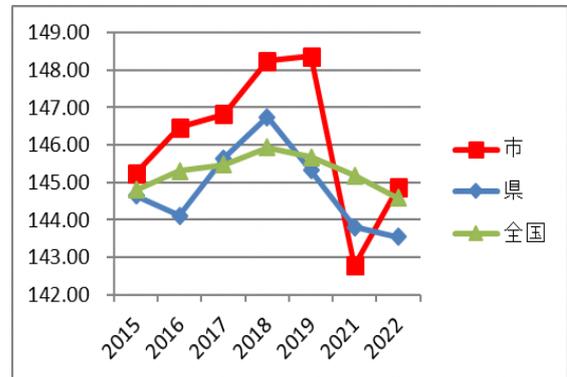
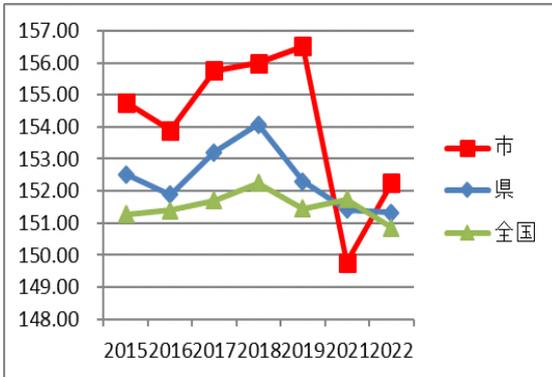
## 調査結果の分析と今後の手立て

1. 実技種目について分析を行い、本市の成果と課題を考察しました。
2. 運動習慣等の質問項目について、本市の成果と課題を考察しました。
3. 第2期草津市スポーツ推進計画における施策達成状況についてまとめました。
4. 調査結果をもとに、今後の手立てを公表します。

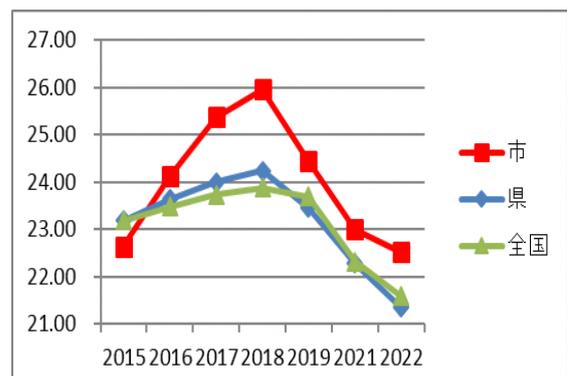
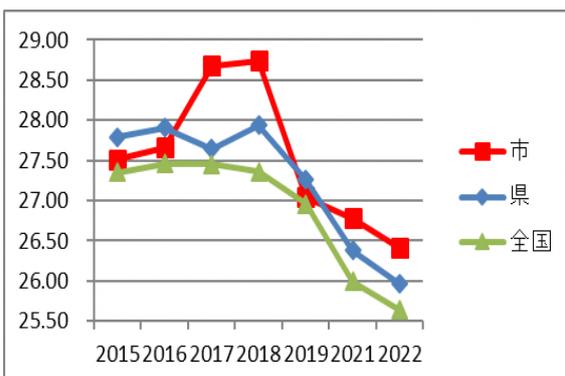
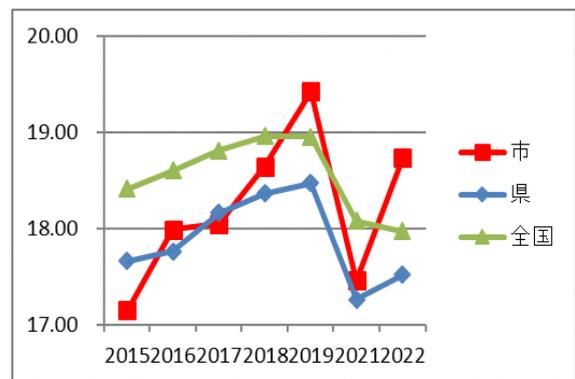
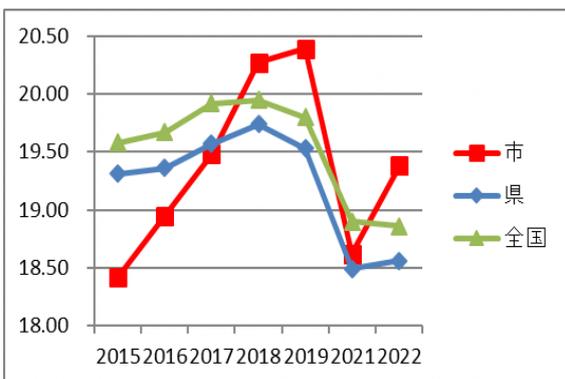
# 1. 実技種目 調査の分析

〈結果の一部〉 (グラフは上段が小学生・下段が中学生 左が男子・右が女子です。)

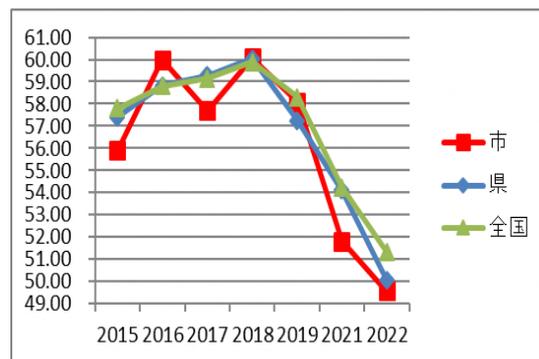
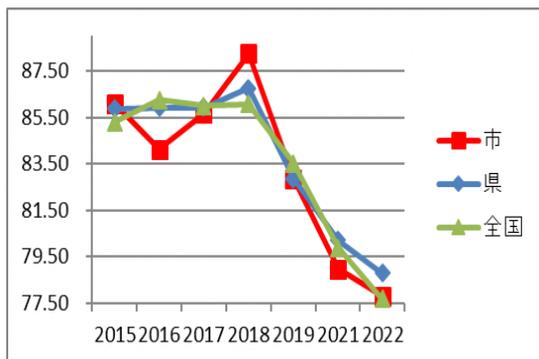
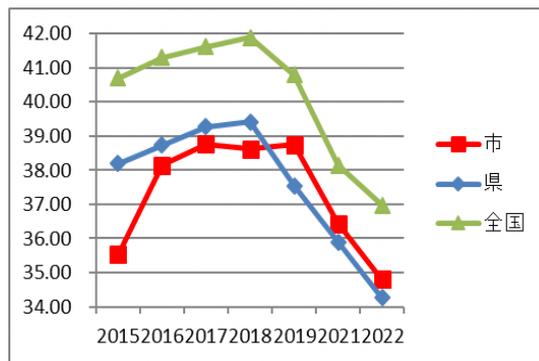
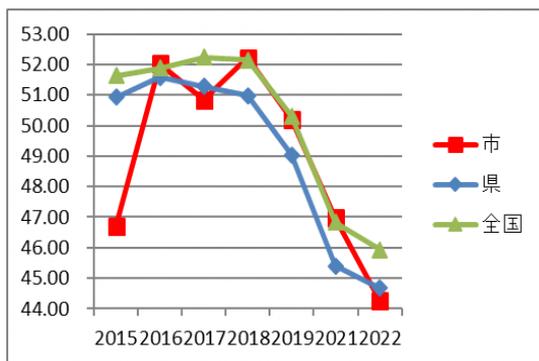
・立ち幅跳び (単位は cm)



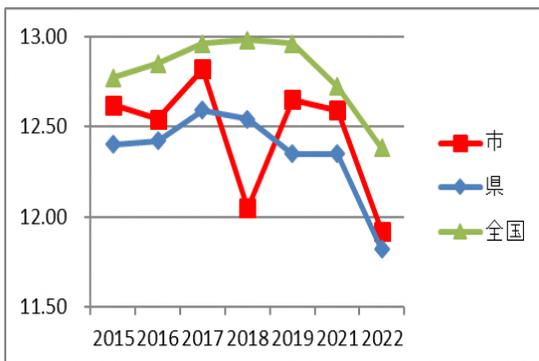
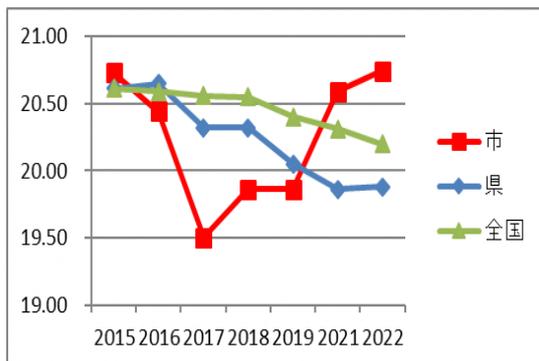
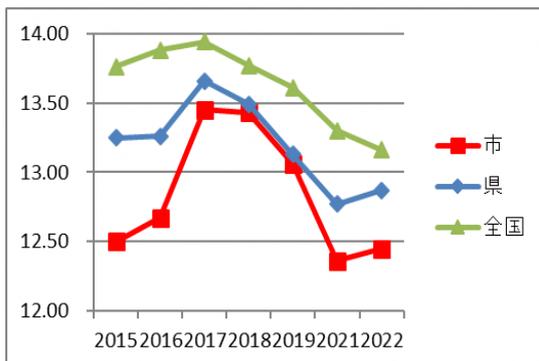
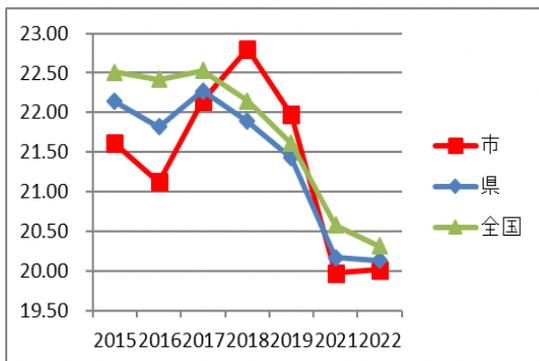
・上体起こし(単位は回)



・20メートルシャトルラン(単位は回)



・ソフトボール、ハンドボール投げ(単位は m)



実技は  
 握力・上体起こし・長座体前屈・反復横跳び・20m シャトルラン(持久走)  
 50m 走・立ち幅跳び・ソフトボール(ハンドボール)投げ の8種目 たび！



## 〈成果〉

○小中学生男女全てで瞬発力・跳躍力(立ち幅跳び)について、令和3年度と比較して、記録の伸びが見られました。また、いずれの記録も全国平均を上回っており、全国平均よりも記録が高い傾向にあります。

(立ち幅跳び)

	R3 市	R4 市	国	県
小5男子	149.78	<b>152.24</b>	150.86	151.32
小5女子	142.78	<b>144.86</b>	144.59	143.55

	R3 市	R4 市	国	県
中2男子	200.41	<b>203.05</b>	196.82	198.98
中2女子	170.53	<b>173.54</b>	166.89	168.08

○小学生は男女ともに筋力・筋持久力(上体起こし)について、令和3年度と比較して、記録の伸びが見られました。小中学生ともに全国平均を上回っています。

(上体起こし)

	R3 市	R4 市	国	県
小5男子	18.62	<b>19.38</b>	18.86	18.56
小5女子	17.46	<b>18.73</b>	17.97	17.52

	R3 市	R4 市	国	県
中2男子	26.78	<b>26.41</b>	25.64	25.96
中2女子	22.99	<b>22.51</b>	21.58	21.34

## 〈課題〉

●小中学生男女全てで全身持久力(20m シャトルラン)について、記録の低下が見られました。ここ数年、記録の低下が続いており、本年度も中学生男子以外は全国平均に及びませんでした。

(20mシャトルラン)

	R3 市	R4 市	国	県
小5男子	46.97	<b>44.26</b>	45.93	44.67
小5女子	36.44	<b>34.81</b>	36.98	34.26

	R3 市	R4 市	国	県
中2男子	78.98	<b>77.81</b>	77.69	78.80
中2女子	51.82	<b>49.58</b>	51.34	50.08

●小学生および中学生女子では、投能力・巧緻性(ソフトボール・ハンドボール投げ)について、低下傾向や全国平均に及ばない傾向がここ数年続いています。

(小…ソフトボール投げ、中…ハンドボール投げ)

	R3 市	R4 市	国	県
小5男子	19.97	<b>20.01</b>	20.31	20.13
小5女子	12.36	<b>12.45</b>	13.16	12.87

	R3 市	R4 市	国	県
中2男子	20.59	<b>20.74</b>	20.20	19.88
中2女子	12.59	<b>11.92</b>	12.38	11.82

### 〈結果からの考察〉

- ①子どもの運動時間がコロナ禍以前より減少していることで、日常的に運動する機会、特に走る時間の減少につながり、走力や全身持久力が低下していることが考えられます。
- ②ボールを思い切り投げる機会や場所が減少していることで、投げ方を学ぶ経験が幼少期・小学生から不足していることが考えられます。

日頃から運動する習慣が大切だね！



## 2. 運動習慣等に関する質問 調査分析

		調査結果のうち、特徴的なもの	調査結果から考えられること	
1	運動への愛好度	成果	小学生では、男女ともに、「運動やスポーツが大切なものである」と考えている割合が全国平均を上回っている。	担任による体育科の学習や養護教諭等による保健指導の中で、運動習慣や体を動かすことの大切さを指導していることが子どもたちの意識向上につながっている。
		課題	「運動やスポーツをすることが好き」と答える子どもの割合が、小中学生男女全てで全国平均より低い。小学校では男女平均で0.9ポイント、中学校では男女平均で0.3ポイント低い。 「体育（保健体育）の授業が楽しい」と回答する子どもの割合が小学生男子および中学生男女で全国平均より低い。	体育・保健体育科の授業づくりについて、実技研修等を通して、児童生徒が主体的に運動や自己の課題解決に取り組み、学ぶ楽しさを感じることができる授業を実践できる教師を育成していく必要がある。 子どもが運動に親しむ機会を創出するとともに、既存の運動機会についてさらに充実させる必要がある。
2	生活習慣	成果	「朝食は毎日食べますか」「毎日どのくらい寝ていますか」への回答から、小中学生の多くが、『早寝早起き朝ごはん』の規則正しい生活習慣が身につけている。	家庭生活で、基本的な生活習慣を身につけることを大切にしている保護者の意識が子どもたちに良い影響を与えている。
		課題	「平日に学習以外で1日にどのくらいの時間、テレビやDVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコンなどの画面を見ていますか」に、4時間以上と回答した割合が、小学生男子と中学生女子で全国平均より高く、スクリーンタイムが長い傾向にある。 「1日にどのくらいの時間運動しますか」の質問に1日60分、週に420分以上運動する小学生の割合が全国平均よりも約3ポイント低くなっている。中学生は全国平均を2～4ポイント上回っているが、昨年よりも減少した。	コロナ禍で、家庭での時間が増えるとともに、外出を控えたことにより、子どもたちが家庭で自由に過ごせる時間が増え、視聴時間が長く、運動時間が減った習慣が続いていることが考えられる。 家での過ごし方について、家族で話し合ったり、利用に関する約束を決めたりすることで、視聴時間を短くし、その時間に体を動かす習慣を身に付けていくことが必要である。
3	体育（保健体育）学習	成果	小中学生男女ともに、体育（保健体育）の学習に進んで参加している。 小学生では、男女ともに、体育の授業でタブレットなどのICTを使って学習することで、できたりわかったりしたことがある割合が全国平均より約10ポイント高い。	一人一台端末の導入や体育授業での活用によって、子どもたちにとってICTが身近なものとなっている。さらに効果的な活用法について教員向け研修等を行い、子どもたちがすぐに活用できる環境整備を継続していく。
		課題	中学生では、男女ともに、保健体育の授業でタブレットなどのICTを使って学習することで、できたりわかったりしたことがある割合が全国平均より7～9ポイント低い。	小学校と比較し、より高度な動きが必要となる中学校では、実技に多くの時間を必要とすることが考えられるが、まずは教員を対象にICT活用について研修を行い、ICTを活用した授業内容の検討や実施について教員の意識を涵養する必要がある。

### 3. 草津市スポーツ推進計画（第2期）の達成状況

#### 基本方針1 子どもの体力向上とスポーツ活動の推進

※目標1は実技8種目各10点、合計80点での得点平均を示しています。

※目標2は質問に対して、強い肯定の項目「好き」「楽しい」と回答した子どもの割合を%で表示しています。

※R4の数値の下の矢印は、R3との比較を表しています。

#### 目標1：実技種目の成績

〈目標値：小学生男女とも全国平均を上回る〉 〈目標年度：令和7年度〉 (点)

		H30	R1	R3	R4
小学5年生男子	市	55.59	54.68	52.14	51.70
	国	54.21	53.61	52.52	52.29
小学5年生女子	市	55.30	55.50	53.21	53.14
	国	55.90	55.59	54.64	54.32

- 小学生は男女ともに昨年度に引き続き低下傾向にあり、目標である全国平均に及んでいません。令和7年度の目標達成に向け、体育科や保健体育科の授業改善等、体力向上に向けた取組を継続してまいります。

#### 【参考：中学生の成績】

		H30	R1	R3	R4
中学2年生男子	市	43.92	42.70	43.50	43.23
	国	42.32	41.56	41.18	40.90
中学2年生女子	市	51.42	50.75	49.04	49.02
	国	50.61	50.03	48.56	47.28

- 中学生は男女ともに令和3年度と比較し、やや低下しましたが、全国平均を上回っています。小学生に比べ、部活動等に加入し運動時間が増加することで、体力向上につながっていることが考えられます。

目標2：運動やスポーツをすることが好きな子どもの割合

〈目標値：小学生男女とも全国平均を上回る〉 〈目標年度：令和7年度〉 (%)

		H30	R1	R3	R4
小学5年生男子	市	75.2	69.3	68.3	65.8 
	国	72.9	71.2	67.2	69.8
小学5年生女子	市	51.6	52.7	49.0	51.3 
	国	55.5	55.5	53.1	55.0

- 小学生男子は令和3年度調査では全国平均を上回っていましたが、本年度は低下し、全国平均に及びませんでした。小学生女子の回答率は上昇しましたが、全国平均には及びませんでした。こちらも令和7年度の目標達成に向け、子どもたちが運動やスポーツに親しむ機会の創出に継続的に取り組んでまいります。

【参考：中学生の成績】

		H30	R1	R3	R4
中学2年生男子	市	61.7	66.6	58.8	62.1 
	国	63.5	62.9	60.6	61.7
中学2年生女子	市	43.6	48.5	42.7	44.2 
	国	47.5	46.9	43.0	44.1

- 中学生は男女ともに令和3年度と比較し、回答率が上昇し、全国平均を上回りました。

## 4. 調査結果を受けての今後の手立て

### ① 体育科・保健体育科学習の充実を図り、体力向上を目指します。

#### 【結果分析より】

- ・「体育の学習は楽しいですか」という質問項目で、肯定的な回答をした児童の割合が、小学校男子では全国平均より0.1ポイント低く、小学校女子では0.6ポイント高い結果となりました。同様に「保健体育の授業は楽しいですか」という質問項目で、肯定的な回答をした生徒の割合が、中学校男子では、全国より1.6ポイント低く、中学校女子では0.3ポイント低い結果となりました。
  - ・さらに、「楽しい」と強い肯定の回答をした児童生徒の割合を見ると、小中学生男女全てで、全国平均を下回りました。このことから、小学校・中学校問わず、体育科・保健体育科学習の授業改善が課題といえます。
- ➡「体育・保健体育の学習は楽しい」と「体力合計点」には相関が認められています。体育・保健体育学習が好きであるほど、体力合計特定が高い傾向にあります。本市でも、体育・保健体育学習が好きではない児童生徒も「楽しい」と感じる学習を行うことで、さらに体力合計点が伸びると考えられます。
- また、児童生徒は、体育・保健体育の授業が楽しくなるためには「自分のペースで行うこと」「自分に合った場やルールで行うこと」「友だちと学ぶこと」が必要だと回答していることが分かりました。児童生徒がめあてを明確に持ち、その達成に向かって、自身のペースで場やルールを工夫しながら、友達とともに学び合う授業づくりを目指します。
- ➡小学校では、体育を専門としない教員でも、子どもたちが「楽しく」・「理解し」・「できた」を積み重ねることができる授業を行うため、授業モデルとして草津市独自に「小学校体育草津モデル」の作成・活用を進めています。中学校では「良く動き、よく考えてみんなで楽しい滋賀の体育」のスローガンのもと、県全体で実践が進められている「滋賀モデル」をすべての学校で共有し、より専門的な指導内容の充実を進めています。今後、市内小中学校でこの取組を進めていくことで、児童生徒の体力向上と運動に親しむ資質能力の育成につなげていきます。
- ➡小学校低学年から「投げ方」を習得し、「思い切り投げる経験」ができるよう、体育の学習でも「投げる運動」を『草津市チャレンジタイム』等で計画的に位置づけ、継続的に取り組みます。

### ② 小学生対象にスポーツ大会等の事業を実施し、児童の運動機会・時間の確保に努めます。

#### 【結果分析より】

- ・本市においても全国の結果と同様に、テレビやゲーム等の画面を見ている「スクリーンタイム」と体力合計得点との相関関係を調べると、小中学生男女とも視聴時間が3時間未満の児童生徒の体力合計得点が全国平均値より高い傾向が見られました。スマートフォンなどの所有率も全校平均と同程度であり、運動やスポーツ以外の好きなことがある子どもが増加していることが考えられます。
  - ・1日60分以上、1週間で420分以上運動する児童生徒の割合は、令和3年度と比較して、小学生は増加し、中学生は減少しました。一方で全国平均と比較すると、中学生は男女ともに全国平均を上回っていますが、小学生は男女ともに全国平均より約5ポイント低い結果となりました。
- ➡体育の授業以外の時間にも運動に親しむ機会を確保するため、特に運動する時間が短い傾向にある小学生を対象に、スポーツ大会等の事業を推進します。例えば、これまで小学6年生を対象にジュニアスポーツフェスティバルにおいて実施してきた「長縄8の字跳び」の大会を、他の学年でも参加できるように実施方法に変更するなど運動の機会を創出し、記録向上を目指して仲間と日常的に運動に取り組み、運動に親しむ子どもの育成を進めます。
- ➡家庭でも、自分一人でも運動する習慣形成のため、滋賀県教育委員会が作成している「体育の宿題」について、各小学校での積極的な活用を図ります。

### ③ 中学校部活動の支援を通して、質の高いスポーツ指導環境の整備に努めます。

【結果分析より】

- ・「学校の部活動や地域のスポーツクラブに所属していますか」という質問項目で、学校の運動部に加入している生徒の割合は、中学生男子は全国より1.5ポイント低く、女子では4.3ポイント高い結果となりました。男子では地域のスポーツクラブに所属している割合が3.3ポイント高い結果となりました。
- ➡地域のスポーツクラブに加入している男子生徒の割合が高いことから、生徒のニーズに応じた活動が行われていると考えられます。学校の部活動でも、運動部・文化部を問わず、生徒のニーズに応じ、専門的な指導を受けることで生徒の体力向上や生涯にわたって運動に親しむ資質の育成を目指します。
- ➡運動部活動は加入者にとって運動機会の確保につながっているため、質の高いスポーツ指導環境を整備し、生徒のニーズに応えるとともに、競技・活動を専門としない顧問教員の支援に努めるために、部活動において競技や活動を専門的に指導できる外部指導員の配置を進めます。

### ④ 各校で調査結果を分析し、「体力向上プラン」等を見直し、実践します。

- ➡校長のリーダーシップのもと、調査結果を分析し、改善策や「体力向上プラン」を協議し、具体的な取組を決め、実践につなげます。
- ➡年成果と課題を明らかにしたうえで次年度の実践へとつなげます。